

平成 24 年度臨床教育助産師育成プログラム

臨床教育助産師育成プログラムの目的

臨床教育助産師に期待する能力を強化する

臨床教育助産師が期待される能力とは

- ・助産観・倫理観・専門知識に基づいて的確に判断し、熟練した助産・看護技術を提供し、指導することができる。
- ・助産実践を通して役割モデルを看護スタッフに示し、助産の魅力を伝えることができる。
- ・教育的視点を持って看護スタッフとかわることができる。

教育助産師育成プログラム

臨床教育助産師に期待する能力を強化するために、二つの学習プログラムを設定する

1. 自身の助産・看護実践の質向上のために、臨床判断力を強化するためのプログラム
2. 部署全体の看護の質向上に向けて、部署の助産師（看護師）の学びをサポートする力を強化するためのプログラム

1. 自身の助産・看護実践の質向上のために、臨床判断力を強化するためのプログラム

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 助産の質とは何かを、プログラムの受講を通してそれぞれが検討する。 2) 自己の実践を分析し、助産観を概念化する。 3) 助産理論を理解し、実践につなげることができる。また、助産実践場面を振り返りながら助産の意味や価値を見出し、次の助産実践につなげる。 	
単元	課題	内容
第 1 (3 回)	自己の実践分析し、助産観を概念化する。	ガイダンス：この単元の目標と学習概要の説明 (1) 臨床教育看護師育成プログラムに準じる (2) 事例報告 テーマ：「自分が大切にしている助産」 自分が大切にしている助産について文章化し、自己の考えを明確にする。 (3) 臨床教育看護師育成プログラムに準じる (4) 臨床教育看護師育成プログラムに準じる
第 2 (17 回)	助産に必要な知識を学ぶ 看護・助産実践を振り返りながら、助産の意味や価値を見出し、次の助産実践につなげる方法を習得する。	(1) ガイダンス/講義：臨床教育看護師育成プログラムに準じる。 講義 ・国際助産学 ・災害時の助産活動 ・不妊治療 (2) 倫理的思考、批判的思考、専門的知識を、リフレクションによる事例検討を通して学ぶ。 テーマ：「自分が助産師として悩んだ一事例」 倫理的問題のある事例・助産実践の場面の事例→1 事例を提出 講義：看護過程/ケアリング/自己と他者/倫理的思考/批判的思考 (3) 臨床教育看護師育成プログラムに準じる
		(1) 実習の目標と実習概要の説明 実習前準備 ・妊娠期の健康審査、分娩介助を妊婦人形およびファントムを使用し演習する。 ・演習後自己課題を明確にする。

		<p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子女性診療科外来にて妊婦健診および保健指導 5 例 ・母子女性診療科病棟（6 A）にて分娩介助 3 例 ・上記外来および病棟にて継続事例 1 例 <p>実習後事例検討</p> <p>自己の助産観の概念を明確にし、助産の質を検討する。 また、自己の課題を見出し、次の助産実践につなげる。</p>
--	--	--

2. 部署全体の看護の質向上に向けて、部署の助産師（看護師）の学びをサポートする力を強化するためのプログラム

到達目標	<p>1) 助産の質とは何かを、プログラム全部の受講を通して個人が検討する。</p> <p>2) 成人の学びとは、成人の学びをサポートするとは何か、理解する。</p> <p>3) 部署の助産師の学びをサポートするという視点で、自部署の質向上のための教育計画を立案する。</p>
第 3 (8 回)	<p>成人の学びとは、成人の学びをサポートするとは何か、理解する。</p> <p>(1) 講義 成人学習理論、教育方法、教育評価、対象理解など *臨床教育看護師育成プログラムに準じる</p> <p>(2) 講義 ・助産師養成教育の現状と課題 ・看護教育カリキュラムについて</p>
第 4 (16 回)	<p>部署の助産師の学びをサポートするという視点で、自部署の質向上のための教育計画を立案する。</p> <p>(1) ~ (4) 臨床教育看護師育成プログラムに準じる</p>